

2015. 1. 23

# 国立病院機構 別府医療センター

## 小児科・NICU 2014年 年報



## 別府医療センター 小児科

### 1. 2014 年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰	4
2) 月別の入院数	4
3) 時間帯別の入院数	4
4) 年齢別の入院数	5
5) 入院数の年次推移	5
6) 入院患者の疾病区分	6
7) 救急車の受入数	7
8) 人工呼吸管理症例	7
9) 手術症例	7
10) 死亡症例	7

### 2. 2014 年 小児科外来統計

1) 外来患者数	8
2) 外来患者数の年次推移	8
3) 紹介患者数と紹介元医療施設	9

## NICU（新生児集中治療室）

### 3. 2014年NICU入院統計

1) 入院、転帰	10
2) 在胎週数、出生体重	10
3) 呼吸管理症例	11
4) 手術症例	11
5) 入院数等の年次推移	11
6) Category別の推移	12
7) 他院への転院症例	13
8) 新生児用救急車の出動形態	13
9) 新生児用救急車の出動先	13
10) 死亡症例	13

### 4. 研究業績

14

### 5. 総評

15

1) 2014年の特徴

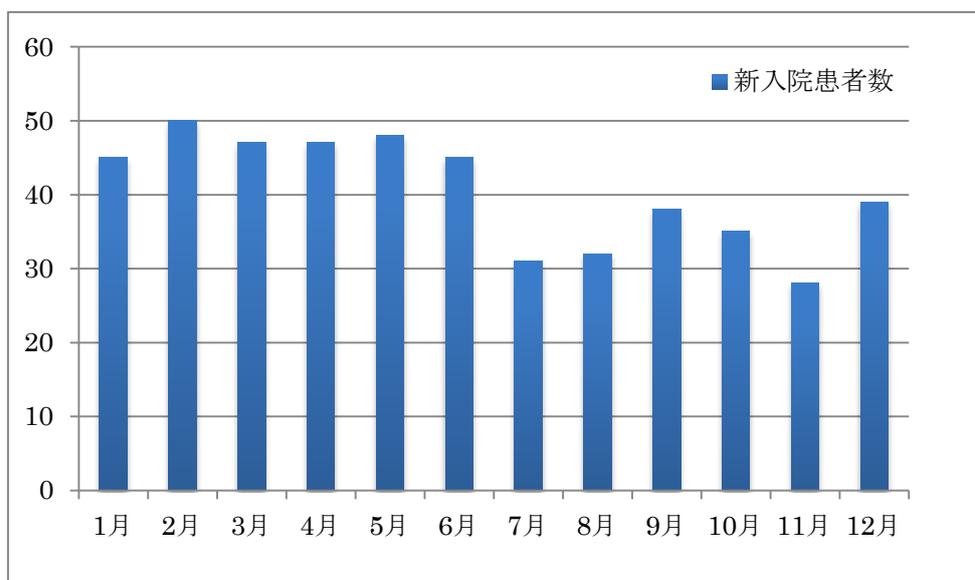
2) 2015年の目標

## 1. 2014年 小児科入院統計

### 1) 入院数と転帰

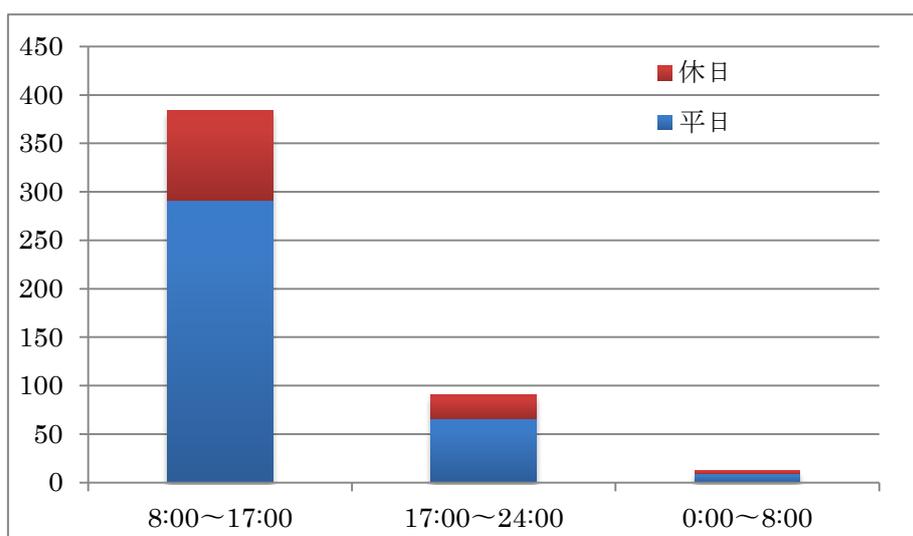
入院			死亡	
入院総数	605		1	(0.2%)
小児科	485	(80%)	1	(0.2%)
NICU	120	(20%)	0	(0.0%)
生存退院	604		死亡退院	1 (剖検数 1)

### 2) 月別の入院数



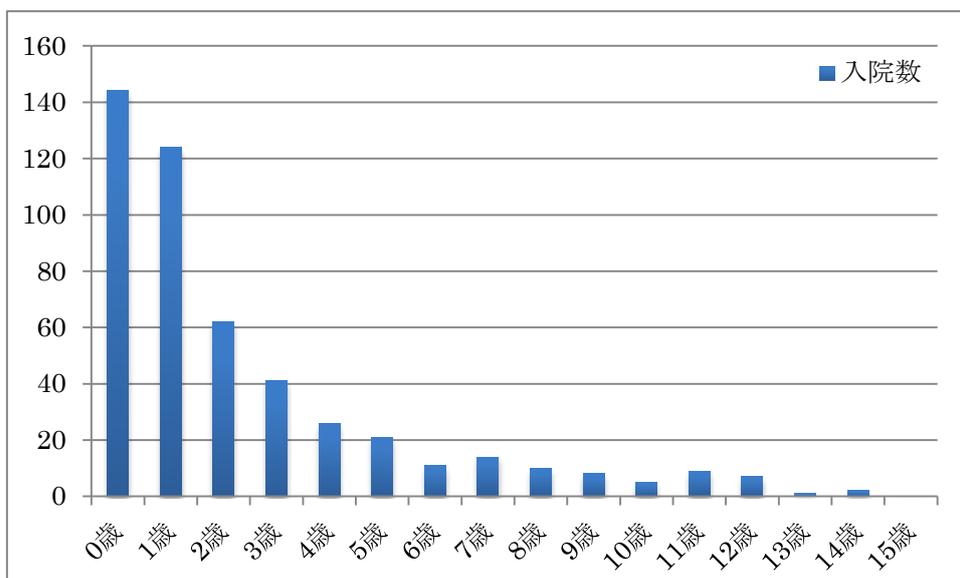
※NICU 入院患者は除く。

### 3) 時間帯別の入院数



※NICU 入院患者は除く。

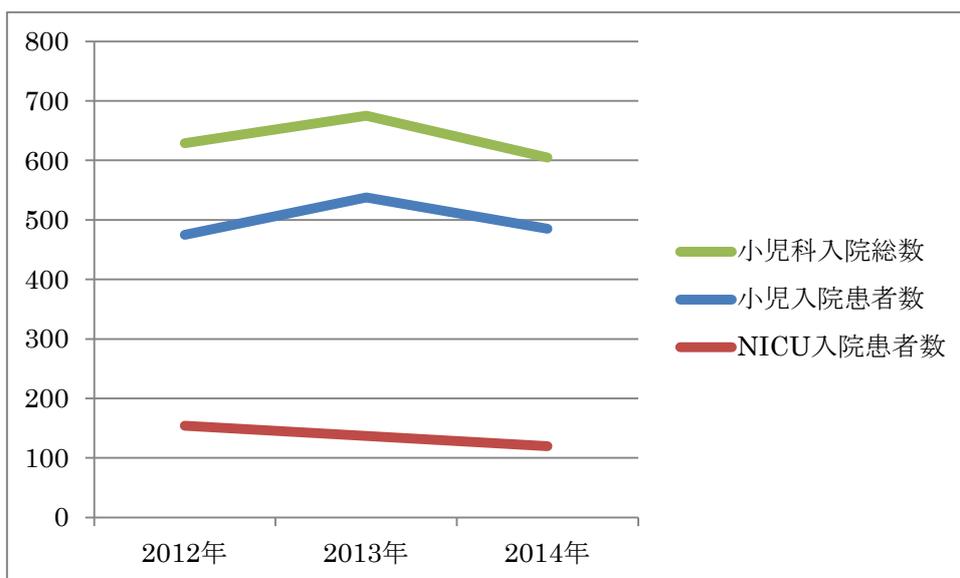
#### 4) 年齢別の入院数



※NICU 入院患者は除く。

#### 5) 入院数の年次推移

	2012年	2013年	2014年
小児入院患者数	475	538	485
NICU 入院患者数	154	137	120
小児科入院総数	629	675	605



6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	主な疾患内訳	症例数
感染症	321	RSウイルス感染症	53
		細菌性肺炎	47
		急性胃腸炎	30
		インフルエンザ	13
		尿路感染症	10
		クループ症候群	6
		溶連菌感染症	5
		アデノウイルス感染症	4
		蜂窩織炎	4
		ロタウイルス感染症	3
		ヒトメタニューモウイルス感染症	3
		手足口病	3
		ヘルパンギーナ	2
		流行性耳下腺炎	2
		敗血症(肺炎球菌、大腸菌)	2
		麻疹	1
		百日咳	1
		無菌性髄膜炎	1
		膿胸	1
		神経疾患	39
無熱性けいれん	8		
けいれん重積	3		
脳梗塞	1		
Bell麻痺	1		
アレルギー性疾患	67	気管支喘息	55
		Henoch-Schonlein紫斑病	8
		アナフィラキシーショック	5
		アトピー性皮膚炎	3
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	19	川崎病	19
腎疾患	3	ネフローゼ症候群	3
内分泌・代謝性疾患	2	1型糖尿病	1
		周期性嘔吐症	1
消化器疾患	12	腸重積	7
		急性虫垂炎	2
		下咽頭梨状窩瘻	1
		絞扼性イレウス	1
血液・悪性腫瘍	2	特発性血小板減少性紫斑病	2
事故・外傷・中毒	7	外傷	3
		頭蓋骨骨折	2
		硬膜下出血	1
		熱傷	1
その他	13	無呼吸発作	4
		脱水症	2
		体重増加不良	1
		乳幼児突発性危急事態(ALTE)	1
		乳幼児突然死症候群(SIDS)	1
		低酸素性脳症(窒息)	1

※ NICU 入院患者は除く。

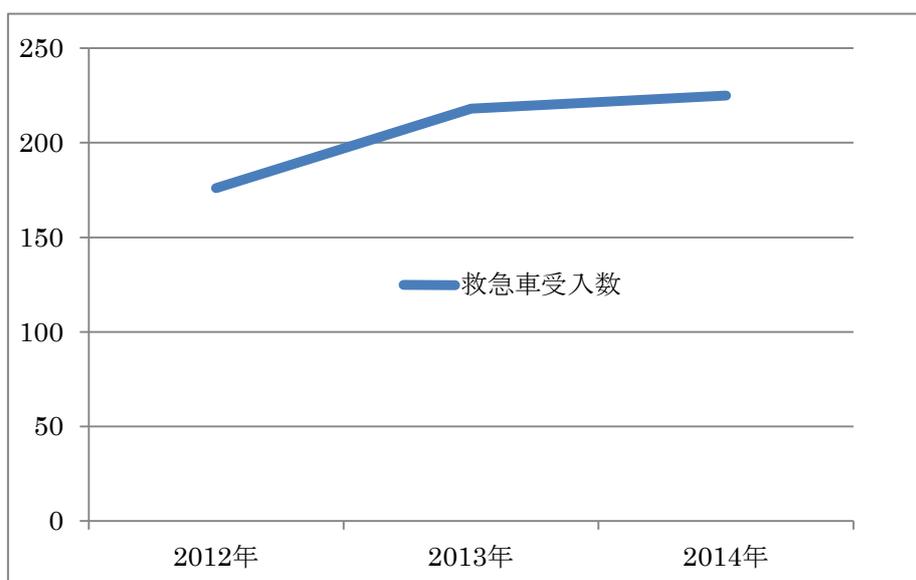
※ 川崎病は全例がアスピリン内服+ガンマグロブリン静注で冠動脈病変を残さず軽快した。

7) 救急車の受入数

月別受入数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	2	8	10	4	4	1	8	3	2	4	4	6	56
外来管理	15	15	15	12	17	12	15	12	12	13	18	13	169
計	17	23	25	16	21	13	23	15	14	17	22	19	225

受入数の年次推移



8) 人工呼吸管理症例

年齢	診断名
0歳	乳幼児突然死症候群
8歳	低酸素性脳症 慢性呼吸不全

9) 手術症例

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	虫垂切除術	2	消化器外科
低酸素性脳症	気管切開術	1	耳鼻咽喉科
腸重積	空気整復術	7	小児科

10) 死亡症例

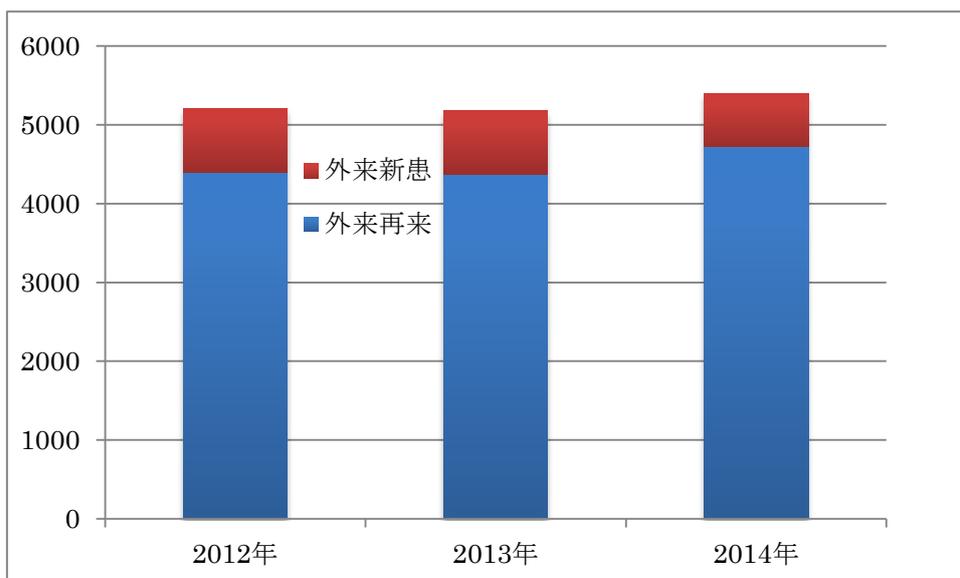
年齢	診断
0歳	乳幼児突然死症候群

## 2. 2014年 小児科外来統計

### 1) 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規外来患者数	56	42	64	64	49	51	58	67	66	49	50	59	675
外来患者総数	439	433	550	478	478	406	451	446	444	441	402	428	5396

### 2) 外来患者数の年次推移



3) 紹介患者数と紹介元医療施設

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数	
大分県	別府市	松本小児科医院	264	
		松井小児科医院	90	
		古城小児科医院	43	
		別府市夜間こども診療所	36	
		あおい産婦人科	27	
		衛藤小児科医院	25	
		河野小児科医院	15	
		岩永レディースクリニック	9	
		矢田こどもクリニック	8	
		別府発達医療センター	5	
		大分県厚生連鶴見病院	3	
		さとう小児科医院	3	
		松岡産婦人科	1	
		西別府病院	1	
		新別府病院	1	
		児玉病院	1	
	耳鼻咽喉科しげみ医院	1		
	その他	4		
	日出町	112	てしまこどもの杜クリニック	63
			矢野小児科医院	46
			金田耳鼻咽喉科医院	2
			岡田内科クリニック	1
	杵築市	44	伊藤小児科循環器科医院	21
			友岡医院	9
			みやうちウィメンズクリニック	7
			杵築中央病院	5
杵築市立山香病院			1	
衛藤外科	1			
宇佐市	13	宇佐レディースクリニック	5	
		佐藤第二病院	5	
		佐藤レディースクリニック	2	
		佐藤第一病院	1	
大分市	23	大分こども病院	13	
		大分県立病院	7	
		その他	3	
中津市	4	中津市立中津市民病院	4	
国東市	9	朝倉内科医院	9	
由布市	1	大分大学医学部付属病院	1	
豊後高田市	2	高田中央病院	2	
福岡県	16	JCHO九州病院	5	
		福岡病院	4	
		福岡市立こども病院・感染症センター	2	
		東医療センター	2	
		九州大学病院	1	
		その他	2	
その他県外	5		5	
		計	766	

※新生児搬送は除いた小児科紹介患者数です。

### 3. 2014年NICU入院統計

#### 1) 入院、転帰

##### 入院と転帰

	入院		死亡	
入院総数	120	再入院なし	0	(0%)
院内出生	80	(67%)	0	
院外出生	40	(33%)	0	
再入院	0		0	
生存退院	120		死亡退院	0

#### 2) 在胎週数、出生体重

##### 在胎週数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	0	0	0	0	0	0	
28	1	0	1	0	0	0	0%
29	1	0	1	0	0	0	0%
30	1	0	1	0	0	0	0%
31	1	0	1	0	0	0	0%
32	5	0	5	0	0	0	0%
33	6	0	5	0	1	0	17%
34	10	0	10	0	0	0	0%
35	11	0	10	0	1	0	9%
36	12	0	6	0	6	0	50%
37	23	0	20	0	3	0	13%
38	24	0	13	0	11	0	46%
39	15	0	3	0	12	0	80%
40	8	0	3	0	5	0	63%
41	2	0	1	0	1	0	50%
42	0	0	0	0	0	0	
計	120	0	80	0	40	0	33%

### 出生体重

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	0	0	0	0	0	0	
750-999	0	0	0	0	0	0	
1000-1499	5	0	5	0	0	0	0%
1500-1999	17	0	16	0	1	0	6%
2000-2499	37	0	28	0	9	0	24%
2500-2999	36	0	18	0	18	0	50%
3000-3499	21	0	11	0	10	0	48%
3500-	4	0	2	0	2	0	50%
計	120	0	80	0	40	0	33%

### 3) 呼吸管理症例

	2010	2011	2012	2013	2014
呼吸管理総数	25	21	28	18	15
IMV/HFV 単独	8	3	2	2	2
IMV/HFV + nasal CPAP	5	7	9	2	5
nasal CPAP 単独	12	11	17	14	8

IMV ; Intermittent Mandatory Ventilation (間欠的強制換気)

HFV ; High Frequency Ventilation (高頻度人工換気)

nasal CPAP ; nasal Continuous Positive Airway Pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

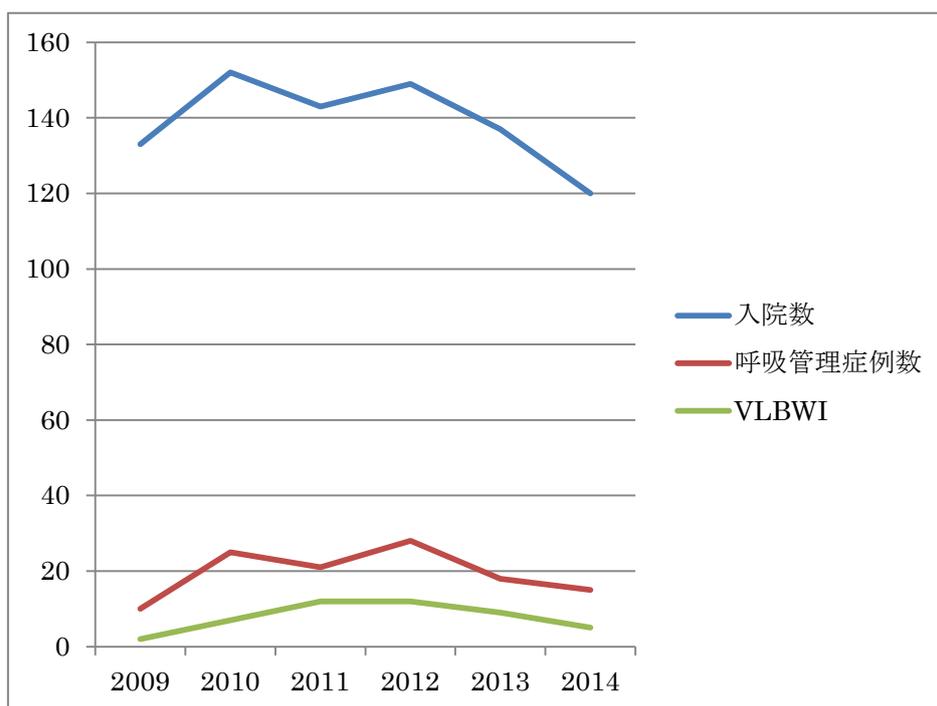
### 4) 手術症例

なし

### 5) 入院数等の年次推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2013
入院数	133	152	143	149	137	120
呼吸管理症例数	10	25	21	28	18	15
VLBWI	2	7	12	12	9	5

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)



VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

#### 6) Category 別の推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014
染色体異常	4	2	2	1	1	2
奇形症候群	1	3	5	10	2	0
先天性心疾患	7	9	7	3	7	9
外科的疾患	1	1	2	1	1	3
VLBWI	2	7	12	11	9	5
LBWI	55	62	58	72	51	52
新生児仮死	11	15	5	2	9	7
頭蓋内出血	1	0	0	0	0	0
神経疾患	0	0	1	1	0	0
感染症	4	5	4	1	3	1
呼吸障害	9	5	12	11	9	11
Low Risk	25	29	29	27	27	23
その他	13	14	6	9	18	7
再入院	4	9	3	5	0	0
計	137	161	146	154	137	120

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

LBWI ; Low Birth Weight Infant (低出生体重児)

7) 他院への転院症例

診断	出生場所	在胎週数	出生体重	転院先
TOF	院外	40	3092	JCHO 九州病院
右心低形成、PDA	院外	38	2840	JCHO 九州病院
十二指腸穿孔、腹膜炎	院外	41	2998	大分県立病院
脊髄髄膜瘤	院外	37	2490	大分県立病院
腸回転異常症、中腸軸捻転	院外	39	3164	大分県立病院
PDA	院外	39	3136	JCHO 九州病院
AVSD、TOF	院内	37	3032	JCHO 九州病院
TAPVC	院外	39	2384	JCHO 九州病院

TOF ; Tetralogy of Fallot (ファロー四徴症)

PDA ; Patent Ductus Arteriosus (動脈管開存症)

AVSD ; Atrioventricular Septal Defect (房室中隔欠損症)

TAPVC ; Total Anomalous Pulmonary Venous Connection (総肺静脈還流異常症)

8) 新生児用救急車の出動形態

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2009	34	28	1	5	0
2010	50	40	1	9	0
2011	46	32	4	9	1
2012	33	25	4	3	1
2013	26	20	1	5	0
2014	36	25	3	6	2

9) 新生児用救急車の出動先 (産科医療施設)

地域	出生場所	回数
別府市	松岡産婦人科	2
	岩永レディースクリニック	12
	あおい産婦人科	12
杵築市	くりやまレディースクリニック	1
	みやうちウイメンズクリニック	2
宇佐市	宇佐レディースクリニック	1
計		30

10) 死亡症例

なし

#### 4. 研究業績

##### 学会発表・講演（医師）

演題名	発表者	学会名	日付	場所
産科からの心雑音を主訴とする紹介受診例： 児の受診時期と先天性心疾患の有病割合	黒川麻里、田中裕子 後藤真希子、古賀寛史	第 92 回日本小児科学会 大分地方会	2014.3.9	大分
大分県東部地域における 先天性難聴の発生調査	古賀寛史	第 50 回日本周産期・新生児 医学会学術集会	2014.7.14	千葉
自然退縮した 先天性副腎腫瘍の一例	森吉研輔、黒川麻里、佐藤大祐 後藤真希子、古賀寛史	第 93 回日本小児科学会 大分地方会	2014.7.27	大分
大分県東部地域における 先天性心疾患の疫学調査	古賀寛史	第 59 回日本未熟児新生児 学会・学術集会	2014.11.10	愛媛
嚢胞性線維症の一例	佐藤大祐、安成大輔、黒川麻里 後藤真希子、古賀寛史	第 94 回日本小児科学会 大分地方会	2014.12.7	大分

##### 論文・著書等（医師）

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
経口免疫療法 食物アレルギー update	後藤真希子	日本医師会雑誌	2014	118	899-903
大分県東部地域における 先天性心疾患の発生状況と 産科クリニックにおける有用な診断指標	黒川麻里、古賀寛史	日本周産期新生児学会雑誌	2014	50	1249-1253
新生児聴覚スクリーニング実施状況と 先天性難聴の原因調査	田中裕子、古賀寛史	日本小児科学会雑誌	2014	118	899-903
パルスオキシメーター	古賀寛史	新生児の診療・ケア Q&A 2014 年 正期産編		メディカ出版	154-157
新生児点眼	古賀寛史	新生児の診療・ケア Q&A 2014 年 正期産編		メディカ出版	158-160
N-terminal pro-brain natriuretic peptide as a useful predictor of early surgery in neonates with congenital heart diseases: p prospective observational study	Makimura M, Koga H,	Pediatr Cardiol	2014	35	77-81
Placental mesenchymal dysplasia and fetal hematologic disorder	Koga H, Makimura M, Tanaka H, Sumioki H	J Pediatr Hematol Oncol	2014	36	e389-391

## 5. 総評

### 1) 2014 年の特徴

【雑感】今年も無事に1年間を終えることができました。地域住民の方々、関連する産科・小児医療機関および院内のスタッフの皆様のご支援のおかげと深く感謝いたします。力不足で十分な対応ができない中、小倉医療センターおよび大分大学小児科から診療応援に来ていただき、ご支援に感謝いたします。少子化およびワクチン接種による感染予防効果のおかげで入院患者数は若干の減少傾向にありますが、地域の子どもたちの健康が保たれている良い結果と捉えたいと思います。

【臨床面】ここ数年の入院患者数は全体でやや減少傾向、外来患者数と救急車応需は微増傾向です。地域の保健意識が高まったことで受診者数が増加したのかもしれませんが。外来受診者数、紹介患者数、救急搬送症例数は横ばいもしくは微増である中、小児の入院数が減少したのは前述のようにワクチン接種による感染症の予防・軽症化が主因と考えます。一方、NICUの入院数が減少傾向を示したのは出生数の減少によるものと考えられます。地域の小児科医と連携して、良質でかつ持続可能な医療の提供を目指していきたいと考えています。

【研究面】先天性難聴と先天性心疾患の疫学調査を行い、当地域における発生状況を明らかにすることができました。今後も日常診療と並行して、臨床研究を進めていきたいと考えています。

【教育面】九州大学小児科の関連施設として機能しております。小児、新生児領域の両面で多様な臨床経験を積むことができる施設です。大分大学小児科から小児神経外来、福岡大学から小児腎臓外来に診療応援をいただいております。

【地域貢献】新生児蘇生法講習会はこれまで通り、希望に応じて無料で開催させていただきます。関連産科施設の皆様でご要望がございましたら下記メールでご相談ください。

### 2) 2015 年の目標

2014年は人員不足のため、夜間こども診療への出動回数を減らさざるを得ず、地域小児科の先生方にはご迷惑をおかけしました。2015年は以前と同様の出動態勢を維持できるよう尽力していきたいと思っております。近隣の小児・産科施設のスタッフの方々には日頃よりご支援、ご配慮いただき感謝しております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: [sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp](mailto:sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp)

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来(小児)、内線 8126(古賀直通)(新生児搬送)

(夜間休日) TEL 0977-67-1111 (代表経由でNICU当直医) まで よろしくお願い致します。